

戦争の音がヒタヒタと近づいています。全ての人は、自分の国のために良かれと思って行動しているのに何故？ 我が国は、世界に先駆けて超高齢化社会を迎えています。すなわち戦争をするための国力の衰えは著しいのです。しかも地震や津波や火山の噴火といった自然災害は世界で有数の国です。世界のどの国が日本を侵略しようというのでしょうか？これほど面倒で世話の焼ける国はないでしょう。仮想敵国を作って自らの失政を欺くことは、愚かな為政者の常套手段です。この国の舵取りが、とんでもない方向に向かい、次世代に禍根を残すことは痛恨の極みです。本当に申し訳なく思います。志のある若者は、世界に目を向けていつでも日本を脱出してください。憲法を無視するような為政者は独裁者と同じです。このような事態になってしまったことは我々の世代の責任です。しかし、まず自民党と公明党の方々に戦地に赴いてもらいましょうね。

【最近目立つ病気】

手足口病が大流行しています。今年の手足口病は高熱が1~2日出るものが多いようです。その後手足や口内、口周囲に発疹が出てきます。外陰部や肛門周囲、上腕や大腿、軀幹にも出ることがあり水痘や単純ヘルペス感染症、伝染性膿痂疹(とびひ)との区別が難しいこともあります。ヘルパンギーナもみられています。経過をみてみると手足口病だったというケースが目立ちます。両者とも原因ウイルスはコクサッキーウイルスが多いので、症状は違いますが同じような病気です。特別な治療もなく、自然に治っていきます。

ウイルス性胃腸炎、ウイルス性発疹症も比較的にみられます。また、おたふくかぜ、溶連菌感染症も時々みられています。夏季は感染症の少ない時期ですが、罹患すると高熱が出るものや、乳幼児では発疹の出るものが多く、突然の高熱で熱性けいれんを起こしたりするので親御さんにとっては心配な季節です。

【手足口病】

手足口病は、口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。乳幼児を中心に、主に夏に流行します。病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルスA6、A16、エンテロウイルス71(EV71)で、その他、コクサッキーウイルスA10などが原因になることもあります。

感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染すること)です。乳幼児では原因となるウイルスに感染した経験のない者の割合が高いため、感染した子どもの多くが発病します。

感染してから3~5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに水疱性発疹が出ます。高熱が出て1~2日で続くことは通常はありません。ほとんどの発病者は、1週間以内に治る病気です。しかし、まれですが、髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症のほか、心筋炎、神経原性肺水腫、急性弛緩性麻痺など、さまざまな症状が出ることがあります。(特にEV71に感染した場合には、他のウイルスによる手足口病と比べて、中枢神経系の合併症を引き起こす割合が高い。)また、手足口病の典型的な症状がみられずに重症になることもありますので、注意が必要です。なお、近年、コ

クサッキーウイルスA6感染により手足口病の症状が消失してから、1か月以内に、一時的に手足の爪の脱落を伴う症例も報告されていますが、自然に治っていきます。

手足口病には有効なワクチンはなく、また手足口病の発病を予防できる薬もありません。治った後でも、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されます。また、感染しても発病はせず、ウイルスを排泄している場合もあります。これらのことから、発病した人だけを長期間隔離しても有効な感染対策とはならず、現実的ではありません。衛生観念がまだ発達していない乳幼児の集団生活施設では、施設内での感染の広がりを防ぐことは難しいです。しかし、手足口病は、発病しても、軽い症状だけで治ってしまうことがほとんどであるという意味で、感染してはいけない特別な病気ではありません。これまでほとんどの人が子どもの間にかかって、免疫をつけてきた感染症です。

一般的な感染対策は、接触感染を予防するために手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。特に、保育施設などの乳幼児の集団生活では、感染を広げないために、職員と子ども達が、しっかりと手洗いをすることが大切です。特におむつを交換する時には、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしてください。

手洗いは流水と石けんで十分に行ってください。また、タオルの共用はしてはいけません。

手足口病に特效薬はなく、特別な治療方法はあります。しかし、まれに髄膜炎や脳炎など中枢神経系の合併症などが起こる場合がありますから、経過観察をしっかりと行い、発熱が2日以上続く、嘔吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が速くて息苦しそう、水分が取れずにおしっこがでない、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。



【中東呼吸器症候群(MERS)】

主な症状は、発熱、咳、息切れなどです。下痢などの消化器症状を伴う場合も

あります。MERSに感染しても、症状が現れない人や、軽症の人もいますが、特に高齢の方や糖尿病、慢性肺疾患、免疫不全などの基礎疾患のある人で重症化する傾向があります。中東地域からMERSの確定症例としてWHOに報告された者のうち、症状が悪化して死亡する割合は、約40%とされています。また、死亡例の約90%は、基礎疾患のある人との報告があります。

人がどのようにしてMERSに感染するかは、まだ正確には分かっていません。2015年5月以降、韓国で流行していますが、多くが、韓国内の病院での院内感染によるものであると考えられています。患者から分離されたMERSコロナウイルスと同じウイルスが、中東のヒトコブラクダから分離されていることなどから、ヒトコブラクダがMERSウイルスの保有動物であるとされており、感染源の一つとして疑われています。一方、患者の中には動物との接触歴がない人も多く含まれています。家族間や、医療機関における患者間、患者-医療従事者間など、濃厚接触者間での感染も報告されています。主に、飛沫感染(咳やくしゃみなどによる)又は接触感染による感染であると考えられています。



☆大手町の夜間急病診療所(Tel:222-0099)では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は9/6、10/1、10/29の予定です。なお、8/16は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

